

---

 卷頭言
 

---



## 素人と玄人

学習指導部長 佐藤英昭

過ぎた日のことだが、茸採り名人との出会いがあった。老齡の名人は、かなりの速さで山道を進むが汗をかくことはない。無論息ぎれもしない。目的地に着くと、やたらと歩きまわることもなく、ゆっくりと周囲を凝視すると、やがて丁寧な足どりで一点にひざをつく。落葉の重なりを一枚一枚、いとおしむように取り除き茸を採る。茸は群生するのだろう。一直線状であったり、円状であったり、一か所でかなりの収穫に恵まれる。

汗もかかず息ぎれもしないのは、自分の歩き方で歩くからだという。また、素人には見えない茸を見つけるのは、多くの失敗を繰り返して山を知るようになったからだという。

ところで、新学習指導要領が告示され3年目を迎えた。いうまでもなく、教育課程審議会の答申に示された四本の柱を基本的に踏襲し、21世紀を志向した改訂である。

学校では、児童・生徒の育成に向けて、特色を生かした教育課程が編成され、分かり易い授業設計など、具体的方策に基づいた教育実践が展開されることになる。その教育活動の中で、小学校、中学校、高等学校の全てに「基礎的・基本的な内容の指導の徹底と個性を生かす教育の充実」（総則「教育課程編成の一般方針」第1款）を図るためには、教師自身の意識の変革がなされなければならない。このことは、学校教育が質的変換を遂げることにも結びつくものである。そして、児童・生徒が、人間としての在り方や生き方をとおして、自らの資質を育む中で人格を形成するために、今こそ教師の力量に大きな期待がかかっているときはなく、教師は、これらの要請に確実に応えなければならないであろう。

ふたたびところで。茸採り名人が、落葉の一枚一枚をいとおしむように剥ぎ、その所作の結果として茸を発見する過程は、何やら教師と児童・生徒とのかかわり合いに似てはいないだろうか。名人は、茸採りに関しては玄人であるから、茸をおおう落葉さえもいとおしむ。そして、「茸は、木の子。子は大事にしないとね」という気負いのない名人の言葉には、培われた年輪が感じられ、含むところがある。

名人が自分の経験から自分の歩き方を見つけ、山のありようを知り得たように、教師はたゆまない自己研鑽と修養をとおして、自分なりの教育の方法を見い出すことが大切である。そして、真摯に、誠意と熱意をもって児童・生徒とかかわりあうとき、そこに、児童・生徒のもっているすばらしい「こころの鼓動」が伝わってくることを疑わない。

何故ならば、教師は、名人芸をもちあわせていなくてもよいが、教育にかかわる玄人であればならない、と思うからである。

---